

<みどころ>

専修大学図書館は、フランス革命関連史料の一大コレクション「ベルンシュタイン文庫」を所有しております。ベルンシュタイン文庫とは、フランスの古書籍商、ジャーナリスト、文献学者のミシェル＝ベルンシュタイン＝ロラン(1906-2003)が、40数年の歳月を費やして収集した、4万7千点を超えるフランス革命関連史料のコレクションです。その中心は革命期に記録・刊行されたパンフレット、新聞、議事録、法令集、ポスターなどの史料ですが、なかには肖像画も多く含まれております。今回はこの肖像画を中心に展示いたします。

肖像画に描かれた人々はいわば、フランス革命の志士たちです。彼らの多くは、絶えず急進化する革命の政治史の流れのなかで、非業の死を遂げています。肖像画も残されていない無名の人々の犠牲は、さらに数多いものでした。自由や平等を謳って名高い人権宣言に代表される、フランス革命の輝かしい成果は、激烈な暴力の中からはかき生み出されなかったのです。

こんなにも犠牲者を出した革命などなければよかった、と結論することはたやすいことですが、あまり現実的な発想とはいえません。なぜならば、いまから200年以上前のフランスで、この事件は、たしかに起こったのです。そしてそれは、フランス一国にとどまらず、時空を超え、人類史上の経験となったのです。私たちもまたこの事件の上に生活しています。このつながりを意識するとき、私たちはあまりにも性急に結論を出すことはできないように思われます。

私たちが当たり前のように享受している自由や平等の陰には、革命の暴力の犠牲になった多くのひとびとの存在がありました。たしかにことは、フランス革命をどのように解釈するにしても、この人々の存在だけは忘れてはならないということです。また、「どのように生きるか」という、誰しもが関わる問いについても、彼らは私たちに何かを教えてくれる気がいたします。革命の志士たちの姿をご覧いただき、さまざまに思いを馳せていただければ幸いです。

*専修大学図書館では、ベルンシュタイン文庫のほかにも、フランス革命や、革命家たちに関する古今の文献を多く所蔵しています。どうぞお気軽に、図書館にお立ち寄りください。